

令和における福生市立学校の在り方検討委員会
令和4年5月18日

6 福生市立学校の現状について
(1) 小学校を核とした公共施設の再配置について

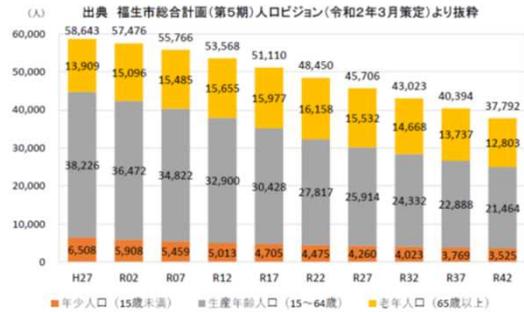
福生市の公共施設の課題

公共施設マネジメント課



公共施設を取り巻く状況② 人口減少

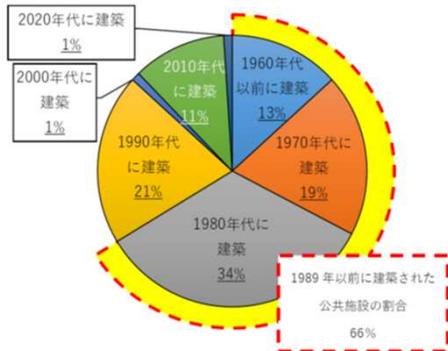
図表 9 年齢3区分別人口の将来推計



「福生市個別施設計画」
(令和2年度)より

公共施設を取り巻く状況① 老朽化

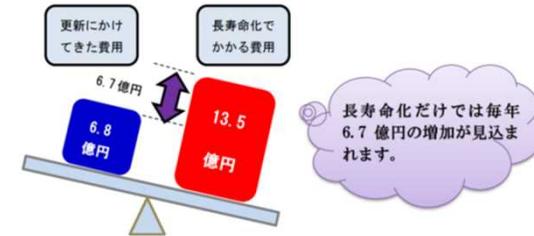
図表 10 公共施設の建築年代別の割合 (令和2年度末時点)



「福生市個別施設計画」
(令和2年度)より

公共施設を取り巻く状況③ コスト増

図表 23 維持・更新コストシミュレーション結果のイメージ
(施設の面積を削減せず、長寿命化により目標使用年数65年を15年延長させた場合)



「福生市個別施設計画」
(令和2年度)より

公共施設を取り巻く状況④ ニーズの変化



計画的な対応が 必要です！

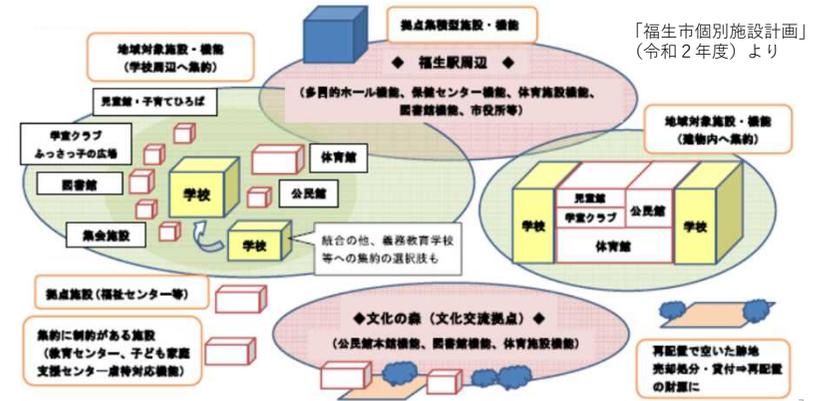
計画的な点検・改修による故障等の予防・修繕コストの抑制・長寿命化

1つの施設を複数の用途で利用し、コストを抑え、利便性の向上

施設の用途、数、配置等を人口減少やニーズの変化に合わせて再編

5

公共施設・複合化集約化のイメージ



7

公共施設再配置基本方針

「福生市個別施設設計画」
(令和2年度)より

➤現在の公共施設は学校区を単位に配置されていることから、身近な学校施設を核として複合化・集約化をしていくことが考えられる。

➤学校施設にはコミュニティ・防災の拠点、子どもの居場所等の機能や施設の地域開放が期待されている一方、少子化と空き教室は必ずしも比例する訳ではない。

- 福生駅前と「文化の森」周辺に拠点集約型施設、中央館機能を誘導する。
- 地域対象施設・機能（分館等）は、学校施設を核に集約を図り、コストの縮減、市民サービス効率化、児童生徒の学習環境向上、地域のコミュニティの維持等を図る。
- 公共施設総量の4割を占め、総合管理計画の数値目標への影響が大きい学校施設の適正配置の検討を今後も進めていく。

6

学校施設を核とした複合化・集約化の効果

◆ 効果

- 学校施設の機能を共用・開放することにより地域ニーズに対応
(体育館、校庭、プール、図書館、集会施設)
- 学校隣接地や敷地内に集めた施設機能を学校教育にも活用することによる学習環境の向上
- 学童クラブ、ふっさっ子の広場を施設内に整備すれば、新・放課後子ども総合プランに基づく一体型事業が実施できる
- 施設が近接、機能連携することによる利便性、防災力の向上
- 住民、児童生徒のイベント相互参加、交流

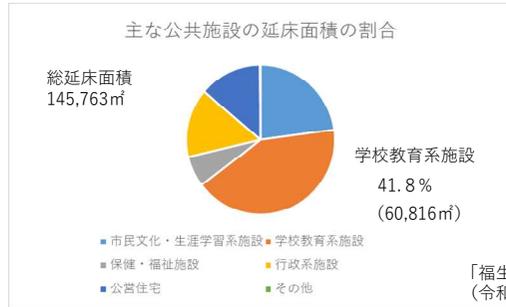
◆ 課題

- 責任分担が明確になる区分（別棟とする等）、防犯、安心安全の工夫
- 間取り、設備を変えられる設計の検討（スケルトン・インフィル方式）

「福生市個別施設設計画」
(令和2年度)より

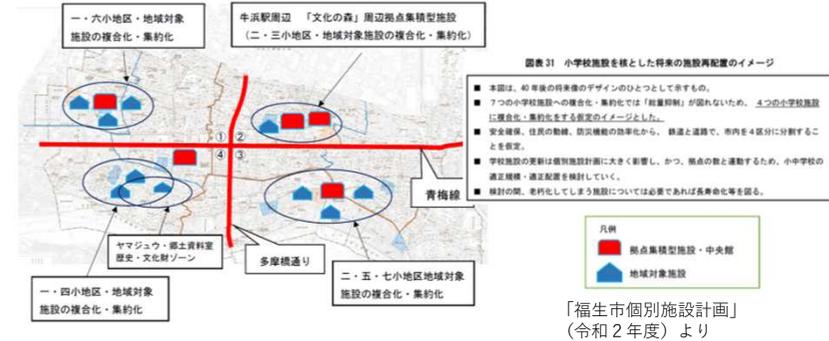
8

公共施設の4割が学校教育系施設

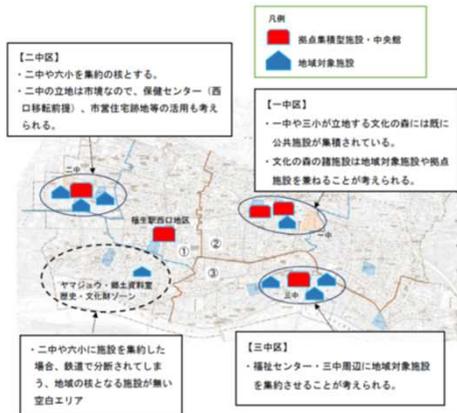


「福生市公共施設等総合管理計画」
(令和3年度)のデータより

小学校施設を核とした施設再配置のイメージ



中学校施設を核とした施設再配置のイメージ



小学生人口と小学校の施設量の将来推計

平成27(2015)年 2,541人 → 令和22(2040)年 予測数 1,778人 (△30.0%)

学校教育法施行令・標準学級数 12～18 学級の児童生徒数の平均値を想定

○ 1～6年 35 学級、
12 学級の下限値 36 人 × 6 学年 = 216 人
18 学級の上限値 35 人 × 3 学級 × 6 学年 = 630 人
上記の上限値～下限値の平均 423 人の規模を仮定
令和22(2040)年の小学校数
1,778 人 ÷ 423 人 ≈ 4.2 校 ⇒ 4 校で充足

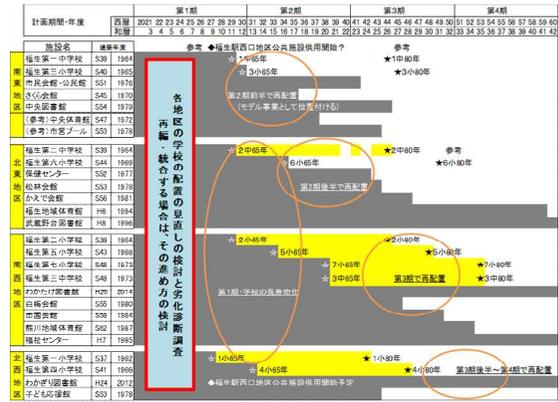


「福生市個別施設計画」
(令和2年度)より

学校の老朽化と再配置の推進イメージ

凡例 ☆築65年目 ★築80年目
 ■ 目標使用年数である、築65年到達年度までをグレーで示し、長寿命化改修を行う学校については築80年到達年度までを黄色で示した。

「福生市個別施設計画」
 (令和2年度)より



市では、皆様の御意見等を踏まえ、これらのイメージをどのように実現していくのか、考えていきます。

ソフトの検討



ハードの計画



ご静聴 ありがとうございました。